

1. テーマ

学術研究の基礎的手法や社会福祉に影響をもたらす政策動向の分析手法を学び、ケース教材を用いた院生同士の討論を通して、社会福祉とその関連領域が直面する課題とその解決の方向性を把握する。

2. 科目のねらい

<キーワード>

- ・修士論文作成に向けた研究基礎力の向上
- ・研究計画書の見直しと調査対象の選定
- ・社会福祉政策分析の視点と方法
- ・研究課題の政策文脈への位置づけ
- ・ケース教材を用いた課題発見・解決
- ・ショートケースの作成

<内容の要約>

本演習では、先行研究を読んだり、論文を書いたりするための基礎的な研究方法や研究倫理について学ぶとともに、社会福祉や社会保障をめぐる最新の政策動向も参照しながら、自分自身の研究課題を深めることを目指します。受講生間の（ネット上）の討論・スクーリング等を通じた積極的な参画が望まれます。

<学習目標>

- ・社会福祉に関連する政策動向を視野に入れて、生活・福祉課題の解決をめざすことができる。
(DP①・DP③)
- ・課題解決に向けて、事実や根拠を示しつつ、院生同士や教員と議論を積み上げていくことができる。
(DP②・DP⑧)
- ・マクロ・メゾ・ミクロを俯瞰した上、自分自身の問題意識や研究課題を明確にすることができる。
(DP⑤・DP⑥)
- ・学術研究の基礎を身につけることで、客観的で論理的な論文の作成ができる。
(DP⑦・DP⑨)

3. テキスト・参考文献

各パート開始前に大学院よりテキストを配布します。

4. 具体的な学習の進め方

本演習は、3人の教員が順次担当して進めるので、履修生はこれら3人の教員による学習パートすべてを学習する必要があります。具体的には、以下のようなスケジュールを進めます。

- | | | | |
|------|----|---------|-----------------------|
| 4月～ | 7月 | 第1学習パート | 担当：後藤 澄江 |
| 7月～ | 9月 | 第2学習パート | 担当：木戸 利秋 |
| 10月～ | 1月 | 第3学習パート | 担当：木村 圭佑（ケース教材を用いた演習） |

第1学習パートおよび第2学習パートは、それぞれの教員が作成したテキストを読んだ上で、インターネットにより教員から指示された課題について、各自で調べたことや学習したことについて、ネット上で発表するとともに、他の受講生や教員と討論することにより理解や考えを深めます。第3学習パートは、他の2領域と同じケース教材を用いた演習を実施します。

4月、7月、9月、12月の4回のスクーリングにおいて、テキストとインターネットでの学習を補完する内容について、各教員が対面授業を実施します。スクーリングの詳細については、別途連絡します。

◆第1学習パート

＜後藤 澄江＞ テーマ：「論文を書くための研究方法」

本パートでは、研究論文を作成するために欠かすことができない研究方法の基礎について学習します。また、『社会福祉研究法論特講』の課題である「第二次研究計画書」提出に向けての助言・指導もおこないます。具体的な学習内容としては、①問いづくり、③先行研究の抄録とレビューの作成方法、③研究の振り返りツールとなるノートづくり、④研究のキーワードの概念化と操作的定義、⑤図式化の活用と留意点、⑥パラグラフとアウトラインの作成、⑦研究計画書や要旨の書き方の極意、⑧研究倫理と量的／質的研究方法などです。テキストに沿った教員による授業・課題提出、それに応じた受講生の回答といったインターネット上での双方向でのやり取りと、スクーリング時（4月および7月）における対面授業とグループワークの組み合わせで学習を進めます。なお、参加は任意ですが、5月中にZoomを用いたリアルタイムオンラインゼミを1回開催予定です。実施日時は4月スクーリング時にお伝えします。

◆第2学習パート

＜木戸 利秋＞ テーマ：「社会福祉の政策動向と課題」

第2学習パートでは、マクロ・メゾレベルから社会福祉政策を捉え、政策分析の視点や方法を学び、自分の研究課題を広い政策文脈に位置付けることをめざします。具体的には、社会福祉政策を、1政策理論、2サービス組織論、3福祉法制論、4福祉計画論、5福祉財政論、6施設・在宅福祉論、7福祉マンパワー論、の7つの柱から捉え、それぞれの柱についてテキストに掲載された概説と資料を参考にしながら、政策動向と課題について検討します。8月中にZoomを用いたリアルタイムオンラインゼミを1回開催予定です。実施日時は4月スクーリング時にお伝えします。そして、インターネット上での学習のまとめとして、政策批判・分析から政策形成へという視点から振り返りを行うとともに、自分の関心領域をもとにレポート作成にむけて発表や意見交換を行います。この最後の課題は、主に9月スクーリングにおいて行います。

◆第3学習パート

＜木村 圭佑＞ 「ケース教材を用いた演習」

第3学習パートでは、ケース教材を用いた演習を行います。授業は、インターネットによる授業、Zoomを用いたリアルタイムオンライン演習（11月頃開催）、スクーリング（12月）における対面授業を組み合わせで進めます。尚、リアルタイムオンライン演習の開催の詳細は4月スクーリング時にお伝えします。多様な背景を持つ院生との討論やショートケースの作成を通して、医療・福祉の臨床（ミクロレベル）、チーム・事業体（メゾレベル）から制度・政策（マクロレベル）への課題発見・解決に昇華させます。

3領域共通のケース教材を用いた演習である第3学習パートの進め方は、以下のような予定となっているが、4月スクーリングの領域演習ガイダンスで具体的に説明します。

[授業計画]

- ・10月上旬～12月：「ケース教材」による演習授業
 - 10月上旬 ケース教材を「nfu.jp」で配布
 - 11月（予定） Zoomにてケース教材を用いたリアルタイムオンライン演習
 - 12月スクーリング 3領域合同の全体討論／領域ごとの振り返り
 - 12月中旬～下旬 「nfu.jp」上での事後学習、レポート課題作成に向けた検討
- ・11月上旬：レポート課題（ショートケースとティーチングノート作成）の提示
- ・1月上旬：レポート課題（ショートケースとティーチングノート作成）の提出

5. 事前学習の内容・学習上の注意

- ・担当教員が示すテーマや課題について、インターネット（「nfu.jp」）で受講者同士が活発に議論を行うことが求められます。
- ・受講者は、新聞（一般の新聞や『福祉新聞』）、専門誌や厚生労働省の審議会や検討会の検討内容、関心のある地方自治体の福祉・保健・医療・子育て支援等の部局の計画書や報告書に常に関心を払い、福祉政策領域に関連した最新の状況を把握するとともに、資料を自主的に集めておくことが望ましいです。
- ・受講者自身の研究テーマに関連したフィールド学習や実地研究の取り組みについては、調査方法はいうまでもなく、調査倫理等について各担当教員からの指示や助言を受けることが求められます。

6. 本科目の関連科目

社会福祉研究法論特講

7. レポート課題・単位認定方法と基準

- ・本演習受講者は、各学習パートの担当教員が指示する3回のレポート課題を提出することが求められます。レポート課題・期限・提出方法の詳細については、各学習パートの担当教員が指示します。
- ・3回のレポート課題の内容、インターネット（「nfu.jp」）への参加状況やスクーリングにおける学習到達度の確認を総合して成績評価を行い、単位を認定します。具体的には、レポート評価（各20点×3）、および、「nfu.jp」上での課題提出やスクーリング時の発表内容や討論への貢献度評価（40点）を行い、総合評価60点以上を合格とします。

1. テーマ

社会福祉学の大学院教育の導入として、基本的な論理的思考および実践的枠組みを臨床的に演習形式で学ぶ。

2. 科目のねらい

<キーワード>

1. 現場での問い
2. 臨床研究ノート
3. ソーシャルワーク実践
4. 臨床的課題
5. ケースメソッド

<内容の要約>

当演習では、福祉臨床領域における基本的な問題および現代的な課題（例：医療福祉、老人福祉、地域福祉など）を幅広く取り上げ、臨床対応能力の習得を目指す。ケースメソッド形式による受講生間の（ネット上）の討論・対面授業としてのスクーリング等を通じた積極的な参加が望まれる。

<学習目標>

- ・社会福祉学にかかわる研究に取り組む基本姿勢を習得できる。(DP②・DP⑤・DP⑦)
- ・臨床的課題の意義を自らの実践にひきつけて説明できる。(DP③・DP⑥・DP⑨)

3. テキスト・参考文献

各パート開始前に大学院よりテキストを配布します。

4. 具体的な学習の進め方

本演習は、3人の教員が順次担当して進めるので、履修者はこれら3人の教員による学習パートすべてを学習する必要がある。具体的には、以下のようなスケジュールで進める。

- | | | | |
|------|----|---------|-----------------------|
| 4月～ | 7月 | 第1学習パート | 担当：齊藤 雅茂 |
| 7月～ | 9月 | 第2学習パート | 担当：保正 友子 |
| 10月～ | 1月 | 第3学習パート | 担当：山内 哲也（ケース教材を用いた演習） |

第1学習パート、第2学習パートでは、各教員のテキストを読んだ上で、インターネットにより指示されたテーマについて、各自で調べたことや学習したことについて、ネット上で発表、討論することにより理解や考えを深める。学習パート毎の具体的な進め方は、各担当教員のインターネットによる指示に従うこと。第3学習パートは、3領域共通でケース教材を用いた演習を実施する。4月、7月、9月、12月のスクーリングにおいて領域演習授業を行う。各教員がテキストとインターネットでの学習を補完する内容について対面授業を実施する。スクーリングの詳細については、別途連絡する。

◆第1学習パート

＜斉藤 雅茂＞ テーマ：「“良い” 学術論文を書くための研究方法入門」

本パートでは、福祉臨床領域における“良い”学術論文を書くために必要な研究方法・アプローチの基礎について学習します。全8講で、①学術論文・学術研究とは何か、②研究計画書の書き方（良い研究と悪い研究）、③先行研究の収集方法とレビューの仕方、④量的研究と質的研究の進め方、⑤定量データ・統計データの解析演習、⑥パラグラフと論文アウトラインの作成を取り上げます。テキストに沿った教員による授業・課題提出、それに応じた受講生の回答といったインターネット上での双方向でのやり取りと、スクーリング時における対面授業との組み合わせで学習を進めます。なお、講とは別に6月中に中間の学習内容の振り返りを目的にしたオンライン交流会（Zoom）を予定しています。オンライン交流会の参加は任意で成績評価の対象外です。

◆第2学習パート

＜保正 友子＞ テーマ：「質的研究法を学ぶ」

第2学習パートでは、第1学習パートをふまえ、多くの方が修士論文で活用する質的研究法について、総合的に学ぶことが目的です。具体的には、①研究の進捗状況を報告しよう、②大学院での研究の流れを押さえよう、③質的研究とは何かを学ぼう、④質的研究のレポーターを学ぼう、⑤質的研究のデータ収集法を学ぼう、⑥質的研究のデータ分析法を学ぼう、⑦質的研究のまとめ方を学ぼう、⑧まとめの項目に沿って進めていきます。

授業は、テキストを用いて、インターネット上での双方向のやり取りとスクーリング時の対面授業を組み合わせ実施します。また、ゼミとしての機能も果たしますので、受講生同士が相互にコミュニケーションを取りながら進めていければと思います。必ずしも修士論文で質的研究法を活用しない人もいますが、自分の研究方法のレポーターを増やす意味でも、この機会に学んでいってください。

◆第3学習パート

＜山内 哲也＞ テーマ：「ケース教材を用いた演習」

第3学習パートでは、ケース教材を用いた演習を行います。授業は、インターネットによる授業、Zoomを用いたリアルタイムオンライン演習（11月頃開催）、スクーリング（12月）における対面授業を組み合わせ進めます。尚、リアルタイムオンライン演習の開催の詳細は4月スクーリング時にお伝えします。

多様な背景を持つ院生との討論やショートケースの作成を通して、医療・福祉の臨床（マイクロレベル）、チーム・事業体（メゾレベル）から制度・政策（マクロレベル）への課題発見・解決に昇華させます。3領域共通のケース教材を用いた演習である第3学習パートの進め方は、以下のような予定となっているが、4月スクーリングの領域演習ガイダンスで具体的に説明します。

[授業計画]

10月上旬～12月：「ケース教材」による演習授業

10月上旬 ケース教材を「nfu.jp」で配布

11月（予定）Zoomにてケース教材を用いたリアルタイムオンライン演習

12月スクーリング 3領域合同の全体討論／領域ごとの振り返り

12月中旬～下旬 「nfu.jp」上での事後学習、レポート課題作成に向けた検討

- ・11月上旬：レポート課題（ショートケースとティーチングノート作成）の提示
- ・1月上旬：レポート課題（ショートケースとティーチングノート作成）の提出

5. 事前学習の内容・学習上の注意

- ・担当教員が示すテーマや課題について、ネット上で履修者同士が活発に議論を行うことが求められる。
- ・第1学習パート、第2学習パートの演習を進める上で、各自がフィールド学習や実地研究を取り入れることが望まれる。フィールド学習や実地研究の取り組みについての詳細は、各担当教員からの指示に従うこと。

6. 本科目の関連科目

社会福祉研究法論特講

7. レポート課題・単位認定方法と基準

- ・本演習履修者には、各学習パートにおいて、担当教員の出すレポート課題を提出することが求められる（計3回）。
- ・レポート課題の詳細については、各学習パートの担当教員から、インターネットにより指示する。
- ・3回のレポート課題の内容とスクーリングにおける学習到達度の確認を総合して成績評価を行い、単位を認定する。
- ・3回のレポートの評価(60点)、スクーリングにおける学習到達度の確認(20点)、ネット上での学習成果(20点)、により評価し、総合評価60点以上を合格とする。 以上

1. テーマ

だれもが地域で安心して暮らすための地域福祉・地域共生社会のシステムとプログラム・実践

2. 科目のねらい

<キーワード>

1. 地域福祉の理論と実践
2. 地域共生社会
3. 地域福祉計画
4. 住民支え合い
5. 実践研究
6. ケースメソッド演習

<内容の要約>

当演習では、地域福祉領域における現代的な課題を幅広く取り上げ、複雑な社会経済環境をふまえた、地域福祉の政策・運営、計画・実践のあり方について検討する。受講生各自による、地域福祉及び地域共生の運営・実践の事例についての発表と討論を通じて、地域独自の政策・運営や計画・実践のあり方について議論を深める。

<学習目標>

- ・地域における人々の暮らしを支える地域福祉・地域共生の理論、政策、計画、実践を体系的に理解し、創造的な実践に活かすことができる。(DP②・DP③・DP⑤)
- ・地域福祉の実践や運営の事例について事実・根拠・理由を示しつつ、仲間や教員と議論を積み上げていくことができる。(DP⑥・DP⑦)
- ・地域福祉研究に求められる基礎的な研究方法を習得し、実践に還元することができる。(DP⑨・DP⑩)

3. テキスト・参考文献

各パート開始前に大学院よりテキストを配布します。

4. 具体的な学習の進め方

本演習は、3人の教員が順次担当して進めるので、履修者はこれら3人の教員による学習パートすべてを学習する必要がある。具体的には、以下のようなスケジュールで進める。

4月～ 7月 第1学習パート 担当：平野 隆之

7月～ 9月 第2学習パート 担当：児玉 善郎

10月～12月 第3学習パート 担当：宇佐美 千鶴

第1学習パートでは、地域福祉領域をはじめ、実践研究やアクションリサーチにおける研究の方法等について、テキストを用いた学習とインターネットおよびスクーリングでの討論を通じて理解を深める。

第2学習パートでは、地域共生社会における住民支え合いについて、テキストと院生による実践事例等の報告をもとに、インターネットを通じた討論を行う。スクーリングにおいては、インターネットでの討論を踏まえた、院生からの実践報告について総括討論を行い、理解を深める。

第3学習パートは、地方自治体や非営利組織のマネジメントに関するケース教材を用い、ミクロ・メゾ・マクロを俯瞰する視野をもち多角的に発想できるよう討論する。またスクーリングでは、3領域合同の演習を行う。

4月、7月、9月、12月のスクーリングで領域演習の対面授業を行う。詳細については、別途連絡する。

◆第1学習パート

＜平野 隆之＞ テーマ：「論文を書くための7つの研究方法」

第1学習パートでは、研究論文を作成するために必要な研究方法を、7つの領域（①研究方法の学びの普遍性、②「意味」のつながり、③ノート論、④「問い」づくり、⑤「概念」について、⑥パラグラフと論文アウトラインの作成、⑦実践研究・アクションリサーチ）を設定し、そのためのテキストを用いて学習する。インターネットによる授業と、スクーリング時（7月）における対面授業との組み合わせで学習を進める。

◆第2学習パート

＜児玉 善郎＞ テーマ：「地域共生社会における住民支え合い」

第2学習パートでは、地域共生社会において人々が安全、安心に住み続けるためには、地域の住民やコミュニティによる支え合いが重要であることから、実践事例をもとに現状の課題と今後の方向性について分析、検討を行う。院生各自による、自身の居住地や職場のある地域における実践事例の報告または先駆的取り組みをしている実践の調査報告を行い、インターネットおよびスクーリング（9月）での発表と討論により学びを深める。

◆第3学習パート

＜宇佐美 千鶴＞ 「ケース教材を用いた演習」

第3学習パートでは、ケース教材を用いた演習を行う。授業は、インターネットによる授業と、Zoomを用いたリアルオンライン演習（11月予定）、スクーリング（12月）における対面授業とを組み合わせで進める。保健医療福祉サービスの供給主体としての地方自治体、非営利組織のマネジメントについて、ケース教材を用いてミクロ・メゾ・マクロを俯瞰する視野をもち、多角的に発想していく。具体的には地域で発生している福祉問題の解決をめざし、事実・根拠・理由を示しつつ、仲間や教員と議論を積み上げていく。具体的な学習の進め方については、4月スクーリングの領域演習ガイダンスで説明する。

[授業計画]

- ・10月中旬～12月：「ケース教材」による演習授業
 - 10月中旬 ケース教材を「nfu.jp」で配布、事前学習
 - 11月上旬 Zoomを用いたリアルオンライン演習
 - 11月下旬 課題－ショートケースとティーチングノートの案作成
 - 12月スクーリング 3領域合同の全体討論／領域ごとの振り返り／課題
 - 12月下旬：レポート課題（ショートケースとティーチングノート作成）の提出

5. 事前学習の内容・学習上の注意

- ・担当教員が示すテーマや課題について、インターネット上で受講生同士が活発に議論を行うことが求められる。
- ・演習を進める上で、受講生各自がフィールド学習や実地研究を取り入れて、具体的な検討を行うことが望まれる。

6. 本科目の関連科目

社会福祉研究法論特講、福祉住環境論特講、地域福祉論特講、福祉施設マネジメント論特講

7. レポート課題・単位認定方法と基準

- ・本演習履修者には、各学習パートにおいて、担当教員の出すレポート課題を提出することが求められる（計3回）。
- ・レポート課題の詳細については、各学習パートの担当教員から、インターネットにより指示する。
- ・成績評価は、3回のレポート課題の評価（25点×3回＝75点）、3つのパートの対面授業およびインターネット上の授業への参加状況（25点）を総合し、60点以上を合格とする。 以上